

貴重な一年

穆金娥
MU JINE

2021年の一年に、私は3つのことが分かった。

- ①私は全能ではなく、平凡な人であること。
- ②他人のことに注目するより、自分の道に集中すること。
- ③難問の存在を許し、それを抱えながら生活していくこと。

2020年12月4日、私はハルピンから飛行機に乗って日本にきた。2週間の隔離期間を経て、熊本での留学生生活を始めた。初めての1人暮らしかつ初めての留学で、私はワクワクして期待していた。自分ならきつとうまくいくと思い、心配事や不安はなにもなかった。加えて、2021年を迎えた時に、いくつかの目標を設定した。良い成績を取って奨学金をもらうこと。日本語能力を更に向上させ、母語話者のように話せること。いろんな国の人と交流し、英語力を身につけること。料理を上手に作れるようになること…しかし、半年が経った頃、達成できた目標はたった2つだった。私は焦って自分を責め続け、とうとう鬱っぽくなってしまった。夜中に眠れなく泣き出し、悪夢にうなされる日々が続いていた。ある日、この辛さに耐えられなく友達に言ったら、彼女の話で目が覚めた。「自分に厳しすぎるんじゃない？ 全能な人はどこにもいないよ！」間違いなく、私は全能な人ではないのだ。これを意識した瞬間に、気持ちがさっぱりした。「お疲れ様、よく頑張ってきた。たとえ平凡であっても、楽しくて素晴らしい人生を築いていこう」と自分に言い聞かせた。そして7月になり、新たな悩みが出てきた。

それは、来年の4月に修士課程を修了した後の進路である。進学と就職、一体どちらの方が良いかと悩んでいた。微信を通じて、高校や大学時代の同級生の動向がよく伝わってくる。A君は国内の名門大学で博士後期に進学した、B君は教員になっている、C君は国外へ博士号を取りに行く、D君は日本の大手企業への就職が決まった…博士後期に進学すれば研究能力やステータスを向上させられるが、一方、就職したら経済的な自立と経験を積むことができて羨ましい。私は一生懸命に同級生たちの情報を収集し、それに基づいて進路を決めようとしていた。結果は言うまでもなく、失敗した。なぜなら、私は最初から自分のことを無視していたからである。人はそれぞれ違うため、自分の道を探さなければならないのだ。

そして、私は自分の道を探し始めた。自分の短所と長所、やりたいこと、望ましい将来の生活像などを分析し、ようやく就職を決心した。しかし、具体的にどんな職業に就いたらいいかが分からない。必死に考えて答えを出そうとすればするほど答えが出せない。私は再び焦りに襲われた。ある日に「人生は難問を解き続ける旅だ」という話を見た。どうしても難問を避けることが出来なければ、それを抱えながら生きて行こう。日々の食事を楽しみ、やる事に全力を尽くし、少しずつ前に進んでいけば、きっと、いつか答えが見つかると思う。

大変成長させていただいた2021年、ありがとう！